

## M3T-CC32R ご使用上のお願い

M32Rファミリ用クロスツールキット M3T-CC32R の使用上の注意事項を連絡します。

- 無限ループ中の変数の参照と更新に関する注意事項
- 標準ライブラリprintf系関数の%f変換で表示させる場合の注意事項

### 1. 無限ループ中の変数の参照と更新に関する注意事項

#### 1.1 該当製品

M3T-CC32R V.4.00 Release 1

#### 1.2 内容

無限ループの中で、変数の参照の後にその変数の更新を行う場合、変数の更新結果が参照に反映されない場合があります。

#### 1.3 発生条件

以下6点の条件をすべて満たす場合に発生します。

- (1) コンパイル時に -O5または-O6を含む最適化オプションを指定している (-O5, -O6, -O7, -Otimeのみ、または-Ospaceのみを指定している)。  
※ -O5または-O6を含む最適化は、-O7, -Otimeのみ、または-Ospaceのみを指定しているときにも行われます。
- (2) 以下の(a),(b)のいずれかに該当するループ構文がある。  
(a) 継続条件が常に真である、while文、do~while文 あるいは for文  
(b) 無条件に実行されるgoto文で作られたループ
- (3) (2)のループ中に、ループ外に脱出するbreak文、goto文 および return文がいずれもない。
- (4) (2)のループ中に変数の参照がある。
- (5) (2)のループ中で、(4)の後に変数の更新を行っている。
- (6) (5)の更新からループの末尾にかけてその変数の参照がない。

## 1.4 発生例

### [ソースファイル例1]

---

```
void func1(int);

void
foo1(void)
{
    int a = 0;
    while (1) {          /* 発生条件(2)(a),(3) */
        func1(a);      /* 発生条件(4) */
        ++a;           /* 発生条件(5) */
                        /* 発生条件(6) */
    }
}
```

---

### [ソースファイル例2]

---

```
int func2(int);

void
foo2(void)
{
    int a = 0;
    for (;;) {          /* 発生条件(2)(a),(3) */
        a = func2(a) + 1; /* 発生条件(4),(5) */
                        /* 発生条件(6) */
    }
}
```

---

### [ソースファイル例3]

---

```
volatile int x;

void
foo3(void)
{
    int a = 0;
infinite_loop:        /* 発生条件(2)(b),(3) */
    x = a;             /* 発生条件(4) */
}
```

```
    ++a;          /* 発生条件(5) */
    goto infinite_loop; /* 発生条件(2)(b),(3) */
                        /* 発生条件(6) */
}
```

---

## 1.5 恒久対策

本内容は、M3T-CC32R V.4.10 Release 1 で改修しました。

日本語版はこちらから [ダウンロード](#)してください。

英語版はこちらから [ダウンロード](#)してください。

## 1.6 M3T-CC32R V.4.00 Release 1での回避策

V.4.00 Release 1 を使用する必要がある場合、以下のいずれかの手段を適用ください。

(1) -O5または-O6を含む最適化を抑止する。

(2) 変数を配置されたアドレスを使って継続条件を設定する。

#pragma ADDRESS で固定アドレスに配置される変数を作成し、この配置アドレスを継続条件としてください。

[例1の変更例]

---

```
void func1(int);

int dummy1;
#pragma ADDRESS dummy1 1 /* &dummy1 が 1 になるような変数を作成 */

void
foo1(void)
{
    int a = 0;
    while (&dummy1) { /* &dummy1 を継続条件にする */
        func1(a);
        ++a;
    }
}
```

---

[例2の変更例]

---

```
int func2(int);

int dummy2;
#pragma ADDRESS dummy2 1 /* &dummy2 が 1 になるような変数を作成 */
```

```
void
foo2(void)
{
    int a = 0;
    for (;&dummy2;) { /* &dummy2 を継続条件にする */
        a = func2(a) + 1;
    }
}
```

---

[例3の変更例]

---

```
volatile int x;

int dummy3;
#pragma ADDRESS dummy3 1 /* &dummy3 が 1 になるような変数を作成 */

void
foo3(void)
{
    int a = 0;
infinite_loop:
    x = a;
    ++a;
    if (&dummy3) /* &dummy3 を継続条件にする */
        goto infinite_loop;
}
```

---

ページの先頭へ

[M3T-CC32R ご使用上のお願い](#)  
[RSO-M3T-CC32R-030601D](#)

## 2. 標準ライブラリprintf系関数の%f変換で表示させる場合の注意事項

### 2.1 該当製品

M3T-CC32R V.1.00 Release 1 ~ V.4.10 Release 1

### 2.2 内容

標準ライブラリprintf系関数の%f変換で、指定された精度に満たない数値を処理すると、通常、小数点以下には%fの精度の個数分の「0」が出力されますが、実際にはひとつ少なく出力される場合があります。

ただし、実際にこのような表示になるかどうかは、変換する数値に依存します。

## 2.3 発生条件

以下2点の条件をどちらも満たす場合に発生します。

- (1) printf系関数(`printf`, `vprintf`, `fprintf`, `vfprintf`, `sprintf`, `vsprintf`) の%f変換を使用している。
- (2) (1)の%f変換に指定された精度をnとする場合、printf系関数で表示させる数値が10のマイナスn乗以下の値である。  
※ %f変換は、明示的に精度指定がない場合、精度として6を使用します。

## 2.4 発生例

[ソースファイル例]

```
-----  
#include <stdio.h>  
  
char bf1[32], bf2[32], bf3[32], bf4[32], bf5[32], bf6[32];  
  
int main()  
{  
    double x;  
  
    x = 0.01;          /* 条件(2) */  
    sprintf(bf1, "%5.1f¥n", x); /* 条件(1),(2) 精度1 */  
    /* bf1を使った処理 */  
  
    x = 0.005;        /* 条件(2) */  
    sprintf(bf2, "%5.1f¥n", x); /* 条件(1),(2) 精度1 */  
    /* bf2を使った処理 */  
  
    x = 0.0064;       /* 条件(2) */  
    sprintf(bf3, "%5.1f¥n", x); /* 条件(1),(2) 精度1 */  
    /* bf3を使った処理 */  
  
    x = 0.0007;       /* 条件(2) */  
    sprintf(bf4, "%5.2f¥n", x); /* 条件(1),(2) 精度2 */  
    /* bf4を使った処理 */  
  
    x = 8.1e-5;        /* 条件(2) */  
    sprintf(bf5, "%6.2f¥n", x); /* 条件(1),(2) 精度2 */  
    /* bf5を使った処理 */  
  
    x = 7.3e-8;        /* 条件(2) */
```

```

    sprintf(bf6, "%10f¥n", x); /* 条件(1),(2) 精度6 */
    /* bf6を使った処理 */

    return 0;
}

```

---

[上記の出力結果 --- ソースファイル例 の bf1~bf6の内容]

出力内容	正しい出力
bf1: " 0."	" 0.0"
bf2: " 0."	" 0.0"
bf3: " 0."	" 0.0"
bf4: " 0.0"	" 0.00"
bf5: " 0.0"	" 0.00"
bf6: " 0.00000"	" 0.000000"

## 2.5 回避策

精度外の桁を標準関数 `math.h` の `floor` で切り捨ててください。

(例) `printf("%5.1¥n", x)`

↓

`printf("%5.1¥n", floor(x * 1E1 + 0.5)/1E1)`

※ 1E1の部分は、精度に応じて変更してください。

(例) `%5.2f`(精度2) → `floor(x * 1E2 + 0.5)/1E2`

`%8f`(精度6) → `floor(x * 1E6 + 0.5)/1E6`

[ソースファイル例の回避例]

---

```

#include <stdio.h>
#include <math.h> /* floor関数を用いるための指定 */

char bf1[32], bf2[32], bf3[32], bf4[32], bf5[32], bf6[32];

int main()
{
    double x;

    x = 0.01;
    /* x の精度外の部分を切り捨てる(以下同様) */
    sprintf(bf1, "%5.1¥n", floor(x * 1E1 + 0.5)/1E1);
    /* bf1を使った処理 */
}

```

```
x = 0.005;
sprintf(bf2, "%5.1f¥n", floor(x * 1E1 + 0.5)/1E1);
/* bf2を使った処理 */

x = 0.0064;
sprintf(bf3, "%5.1f¥n", floor(x * 1E1 + 0.5)/1E1);
/* bf3を使った処理 */

x = 0.0007;
sprintf(bf4, "%5.2f¥n", floor(x * 1E2 + 0.5)/1E2);
/* bf4を使った処理 */

x = 8.1e-5;
sprintf(bf5, "%6.2f¥n", floor(x * 1E2 + 0.5)/1E2);
/* bf5を使った処理 */

x = 7.3e-8;
sprintf(bf6, "%10f¥n", floor(x * 1E6 + 0.5)/1E6);
/* bf6を使った処理 */

return 0;
}
```

---

[上記の出力結果]

出力内容

bf1: " 0.0"

bf2: " 0.0"

bf3: " 0.0"

bf4: " 0.00"

bf5: " 0.00"

bf6: " 0.000000"

## 2.6 恒久対策

本内容は、次期バージョンで改修する予定です。

---

### [免責事項]

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。ニュース本文中のURLを予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。